

えびめ 地域づくり協働体通信

地域活性化センターからのニュースレター

令和4年4月13日に一般財団法人地域活性化センターと公益財団法人えびめ地域活力創造センターは地域の活力創造に向けた事業実施及び人材育成に関する連携協定を締結しました。

今回は、その一環としてインタビュー事業で西予市野村町の横林地区を取材させていただきましたので、その取材内容を掲載しています。

横林地区について

横林地区は西予市東部、旧野村町内にあり、市中心部から車で約45分の所にあります。人口は354人（令和4年9月末）、小学生10名、中学生13名の小さな集落です。出生率は驚きの3.2で、多子世帯が多く、地域で子供たちを育てる環境があるのが特徴です。

しかし、今後の人口予測（右図）では、2065年に48人まで減少することが示されており、特に女性の転出率が大きな課題となっています。

今回はこの横林地区を（一財）地域活性化センターのインタビューメンバーで取材させていただきました。



横林自治振興協議会

横林自治振興協議会では、西予市地域づくり活動センターの周藤功治さんを中心に地域をよりよくなる活動を実施しています。

例えば、周藤さんが今後のリーダーになって欲しい若者を中心に声掛けし、編成した部会「課題解決グループ」と「未来創造グループ」（40代以下の若手がメンバー）では地域の未来を考え、様々な意見を出し合っています。部会で出た意見に優先順位を付け、西予市の手上げ型交付金事業などを活用しながら様々な事業を実施しています。

また、西予市が進める、公民館の地域づくり活動センター化を検討する中で、横林地区では地域任用職員を先行して導入しています。横林地区在住で5児の母でもある清水さんが担当し、公民館を利用されない方や、行政からは普段聞けない話をお茶会等を通して収集するなど、何気ない会話から市民の困りごとをキャッチしています。さらに、自分の子供たちが地域で様々な体験をさせてもらったことから、この体験事業を地域に残したいと自ら藁づくりやみそづくり、お米体験などに挑戦されています。

限られた人員・資源の中、地域に残したいものを残す、地域に貢献するといった行政職員や住民の姿から、これからの地域づくりに大切なことを学びました。



地域づくり推進係
（周藤さん）



地域任用職員
（清水さん）



引用元：グーグル合同会社「Google マップ」

売切れ続出のブランド椎茸「霧源(MUGEN)」

横林地区はV字谷地形で冬は集落全体が濃い霧に包まれます。そんな同地区で代表的な産業の一つが原木椎茸の生産。傘の大きさが10センチを超えるものもあり、肉厚でとてもジューシーです。この原木椎茸をブランド化した「霧源(MUGEN)」は県内のスーパーで販売されると即日完売で、都市部でも高値で取引されています。



また、これまで販売できなかったものをシタケパウダーとして商品化することで付加価値をつけ、生産者の意欲向上にもつなげています。

このように生産者の所得が安定することで、後継者探しにも役立ち、現在は27歳の地域おこし協力隊を後継者として事業継承が始まっており、次のサイクルもできつつあると感じました。

横林応援隊

横林応援隊では、お互い様の気持ちで地域の困りごとを自分たちで解決しています。

地区外の方も応援隊に登録可能で、参加者には「ありがとうチケット」がお礼に配布されます。ありがとうチケットは横林地区内の飲食店等で使用できるため、地区内の経済循環にも貢献しています。

仕組みももちろんですが、自分にできることをお互い様精神で実行しているところが横林地区の魅力だと感じました。

横林応援隊の仕組み



地域の拠点CAFE「かり暮らし」

雄大な自然の景色を望みながら食事などを楽しむことができるカフェ「かり暮らし」では、地域の拠点施設として多くの方々に利用されています。

・地産地消の拠点施設

ドリンクメニューのほかにも地域の食材や近隣の野菜を使ったモーニング、ランチなどを提供しています。

・文化芸術の拠点施設

カフェでありながら映画上映会や横林の藝術祭「横藝2022」の会場にも利用され、文化や芸術に親しむ拠点ともなっています。

・交流の拠点施設

麴の料理講座、マルシェ、紙漉き体験や大人の絵本会等の多様なイベントを開催し、多くの方々の交流拠点となっています。そのほかにも地域の人のアイデアや持込企画が実践できるコミュニティスペースとしても活用されています。

新たなコミュニティが生まれる場所

マルシェや映画上映会、藝術祭等を通して、新たな仲間ができたり、出会いの場、交流の場として、沢山の人が憩い、元気になる空間です！



編集後記

★「それぞれの自分の出番」がある

⇒小さな集落だからこそ、「それぞれの自分の出番」があるというお話を伺い、まずは自分にできることから始め、自分の役割を見つけていくことが大事だと改めて感じました。

★顔の見える付き合いが大切

⇒顔を合わせる機会があれば、住民の小さな変化、見えない情報を生活の中でキャッチすることができるという、様々な交流の場への参加や、公私問わず多くの方と関わっていくようにしようと思いました。

★思い出や地域の誇りを残す

⇒横林地区ではSNSを利用して地域の映像や記録等を発信しており、出て行った若者はそれを見て地元を思い出したり、結婚や出産の際にUターンするきっかけにもなると思いました。

※一般財団法人地域活性化センターについて

活力あふれる個性豊かな地域社会を実現するため、まちづくり、地域産業おこし等、地域社会の活性化のための諸活動を支援し、地域振興の推進に寄与することを目的として活動しています。

会員：都道府県、市区町村、民間企業など、計1,927団体（令和4年9月1日時点）

地域活性化センターホームページ：<https://www.jcdr.jp/>

この情報紙に関するお問合せ先

（公財）えひめ地域活力創造センター TEL：089-926-2200 E-mail:ehime-chiiki@ecpr.or.jp